

東海民放クラブだより

相山女学園大学文化情報学科特別講義「音風景の会」協力・支援
学生たちがラジオドラマの再現に触れる 成田 徹男 (CBC)

去る6月26日「音風景の会」が支援協力する特別授業を開講した。講義内容は、声優の皆さんの生出演で、ラジオドラマの再現を演じていただくという、大変ドラマティックな演出で展開される内容である。

台本は、1959年(昭和34年)11月25日(土)CBCラジオで放送された秋元松代作、放送劇『軽の太子とその妹』(6世紀後半のお話)。

この番組を制作した演出家の大御所、佐藤年さんが指揮を執り、舟木淳さん(劇団ふなきスタジオ



飯塚恵理人 教授の開講あいさつ



特別講義風景

代表) 松ヶ崎敬子さん(元CBC)

ア)他、劇団ふなきスタジオの皆さんが出演。授業は、生放送のドラマ制作と同じで、事前準備が大変であった。

テーマ音楽、ブリッジ、BGM、効果音(SE)全てをサンプルに仕込んで、ワンタッチで再生可能とする。

音楽は、ドラマの内容を汲み取り、重苦しい、悲哀に満ちた感じのものとなると、シベリウスの曲が頭をかすめる。

そこで、ライブラリーから「トウネラの白鳥」「悲しいワルツ」「交響曲第5番」を選曲。

効果音は、SEのCD全集などを引っ張り出し、視聴するも、なかなかぴたりこない。



佐藤年プロデューサーの講義風景

台本の添え書きにある「ほとほと扉を叩く音」、これは一体どういう音だろうか。我が家の扉を何度叩き、試行錯誤しながら生収録する。最後は妥協の産物となる。

弓矢が飛ぶ音、最後にブスッと刺さる音。数々の風の音をCDより引つ張りだす。そして、落下の音を選び出す。編集・合成して弓矢の音を作り出す。

当日は、音声設備も全て自前で、マイキング、ミキサー、ICレコーダー等のセッティング、そして本番、ミキシングオペレーターへと進む。現役の頃を思い出しながら、冷や汗かきかき、90分の授業を終えた。

特別講義の趣旨について

飯塚恵理人教授(文学博士)

「日本の伝統と文化」(飯塚恵理人担当講義)で、「日本の芸能や文化における表現方法の特質の理解」を目標とし、「ラジオドラマの再現

を通じ視聴者に情景を思い浮かばせる声優の声の表現技術」をテーマに特別講義を行いました。

元中部日本放送の演劇担当演出家の佐藤年氏、相山女学園高校卒業後、劇団CBC所属女優を経て同社アナウンサーを長く務めた松ヶ崎敬子氏、元・劇団CBC所属俳優の船橋俊一(芸名舟木淳)氏を特別講師に迎えました。

佐藤氏が音について説明、氏が演出を手掛けた昭和30年代前半放送のラジオドラマ『軽の太子とその妹』(秋元松代作)の朗読が行われました。これは兄と妹の禁断の恋を描いた作品で、学生達も臨場感を出す演出として、群集の役で声を出して参加。受講生は「ラジオドラマには言葉から情景や心情を思い浮かばせる迫力がある」と語っていました。

ドラマ制作技術スタッフ
音声 成田徹男
効果 岡本常守
静止画 武藤美喜
その他関係スタッフ

市川康平
塚本勝美
村上和彦
他4名